

## 東大和市

【児童・生徒数】  
6,355名

【学校数】  
15校

### 【東大和市の特色】

- ・本市は、住宅地が多く、北に狭山丘陵があり、自然豊かな環境である。
- ・市内に5校ある中学校ごとに学区を設け、小中一貫教育に取り組んでいる。



### 【課題・改善】

- ・令和5年度は、日本フライングディスク協会指導普及委員や空手道愛好会の講師陣及びオリンピックの塚原氏と連携を図った。これらの取組から、新たな関係機関が連携を図りたいと興味を示している。このことから今後も多数のスポーツ関係機関との連携を計画的に図り、参加意欲の向上や環境を整備する。
- ・今年度より部活動地域移行として二つの部が試行を行ったが、今後も児童・生徒の実態、地域の実態を捉えながら、より質の高い活動ができるように進めていく。引き続き、より質の高い活動ができるよう指導者の確保やスポーツ関係機関との連携を深めていき、部活動地域移行につなげる。

### 目標

- ・関係機関等と連携を図り、児童・生徒が進んで運動やスポーツ等に取り組む環境を充実し、運動習慣の定着を図るとともに、地域との関係づくりを構築する。
- ・部活動地域移行への円滑につなげる。
- ・子供から大人までの誰もが、そして性差、障害の有無等を超えた生涯スポーツを実現する。

### 【成果】

- ・放課後子ども教室や授業に参加した児童・生徒及びスタッフ等の聞き取りにおいて、運動・スポーツへの参加意欲の向上及び興味・関心の高まりが見られた。
- ・放課後子ども教室におけるスポーツ関係機関との連携において、回数を重ねるごとにリピーターが増えるとともに、参加者数が増加した。
- ・各関係機関との連携が他の運動・スポーツにおける個人及び団体に波及し、本格的かつ多様なスポーツ環境が増えた。
- ・放課後子ども教室や授業での取組が、部活動地域移行にも波及し、本市が目指す持続可能な生涯スポーツの実現に向けたモデルの基盤づくりとなった。

### 【実態・課題】

- ・コロナ禍による児童・生徒を取り巻く運動、スポーツ環境が大きく変化し、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、運動、スポーツへの参加等の意欲が著しく減少している。
- ・コロナ禍以前に構築されていた児童・生徒と地域との関係が希薄化され表面化している。

### 【取組】

- 放課後子ども教室におけるスポーツ関係機関との連携した取組
  - ・日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、フライングディスク体験を実施。
  - ・空手道愛好会からの講師陣と連携し、空手道体験を実施。
  - ・アテネオリンピック男子体操金メダリストの塚原直哉氏と連携し、体操体験を実施。
- 授業におけるフライングディスク体験の取組を実施
  - ・日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、小学校10校全校においてフライングディスクの授業を実施。

## 【取組（詳細）】

### ○ 放課後子ども教室におけるフライングディスク体験の取組の充実

日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、全ての小学校に対して、各校2回、放課後子ども教室の時間に、フライングディスク体験を実施した。  
放課後子ども教室のスタッフも一緒に参加することで、児童がとても楽しんでいる姿が見られた。



スタッフとディスクを投げて楽しんでいる姿

### ○ 放課後子ども教室における空手道体験の取組の充実

空手道愛好会からの講師陣と連携し、小学校全校に対して、各校1回、放課後子ども教室の時間に、空手道体験を実施した。  
児童は、空手道での心の面や実際の型の動き方について、触れることができた。子どもからは「楽しかった。」という声がたくさん上がった。



大きな声を出しながら蹴りをしている姿

### ○ 放課後子ども教室における体操等に関する演技及び講演等の充実

アテネオリンピック男子体操金メダリストの塚原直哉氏と連携し、放課後子ども教室における体操体験を実施した。  
児童をはじめ、スタッフや教職員からは、塚原氏のマット演技を見て、心から喜んでいる姿が見られた。



塚原 直哉 氏

### ○ 授業におけるフライングディスク体験の取組

日本フライングディスク協会指導普及委員の本田雅一氏と連携し、小学校全10校で第6学年を対象に全学級でフライングディスクの授業を実施した。  
本田氏のプレーに「すごい」という声が多く上がった。



本田 雅一 氏によるデモンストレーション

授業の振り返りを実施している様子。  
児童からは、「もう一度やりたい。」という声が上がった。

